

110,000人の30周年

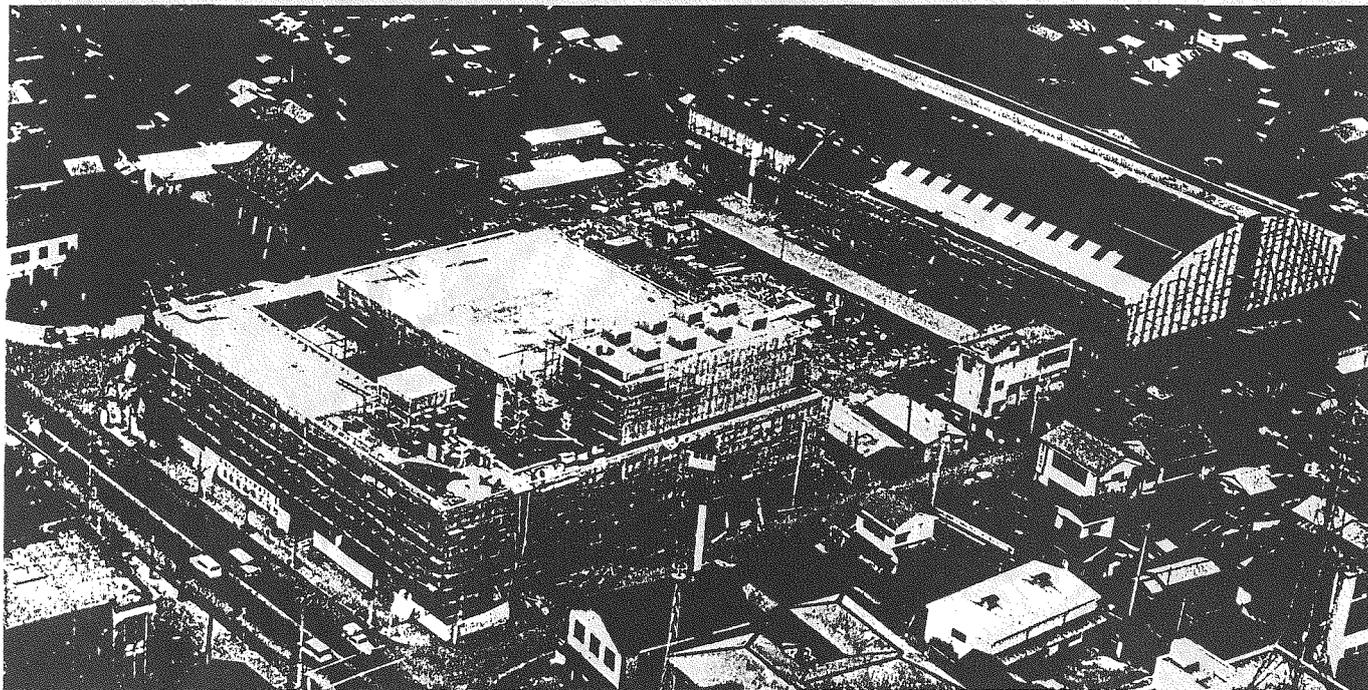


七夕まつり開幕
市民センター落成
市制30周年記念式典

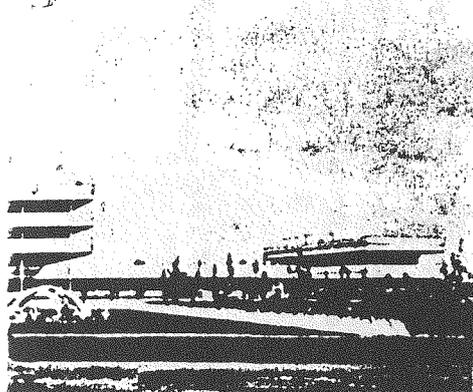
7月5日から5日間、通算第12回目の七夕まつりが幕をあげた。ことしはとくに市制30周年にあたり、待望の市民センターも完成してよこびは深い。市は、七夕第2日目の7月6日、午前10時から、新装なった市民センターホールに、市制30周年と市民

センター落成を祝う記念式典を挙げる。

昭和37年7月5日発行
平塚市役所・編集総務課



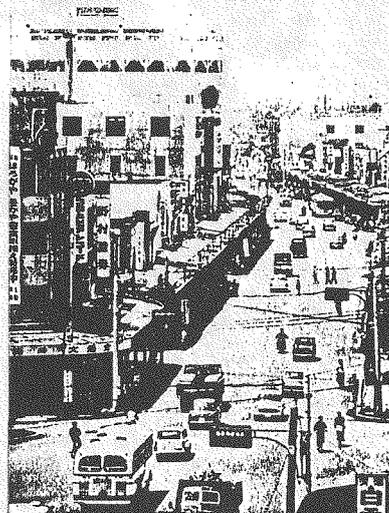
平塚市民センターと見附台体育館



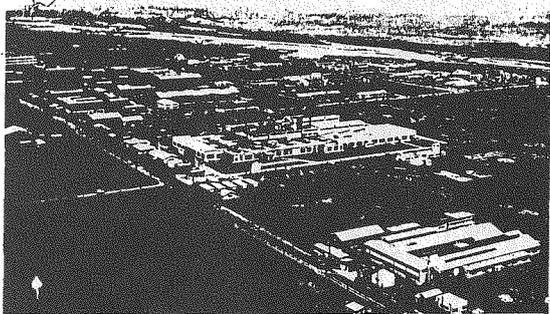
今年度から数億をかけて建設する
新市庁舎…成長する市政を象徴する

成長する市政

総工費2億4350万円を投じて完成した市民センターに続いて、来年は1億3000万円をかけ3年がかりで改築整備中の見附台体育館が落成する。さらにことしからは、39年完工を目標に建設する新市庁舎も着工する。昭和36年度の総体予算38億円を記録した市政は、30周年をむかえて、充実とあたらしい成長を試みようとしている。
戦災復興も教育施設整備も財政力の充実もそろって見とおしがつき、市政はあたらしい時代にはいるうとしている。



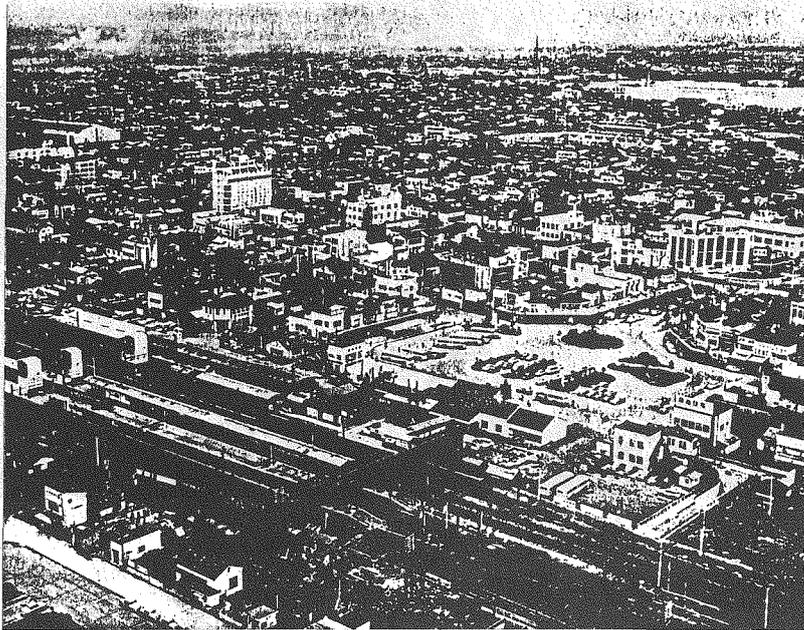
充実する中央商店街のまちなみ



工業はいまや名実ともに平塚の第一の産業となった



上・平塚の将来をかける新工業地帯、下・七夕夜景。



17年前、焦土と化した平塚のまちは、その様相を一変してあたらしい繁栄をみせる

ひらつかの素顔

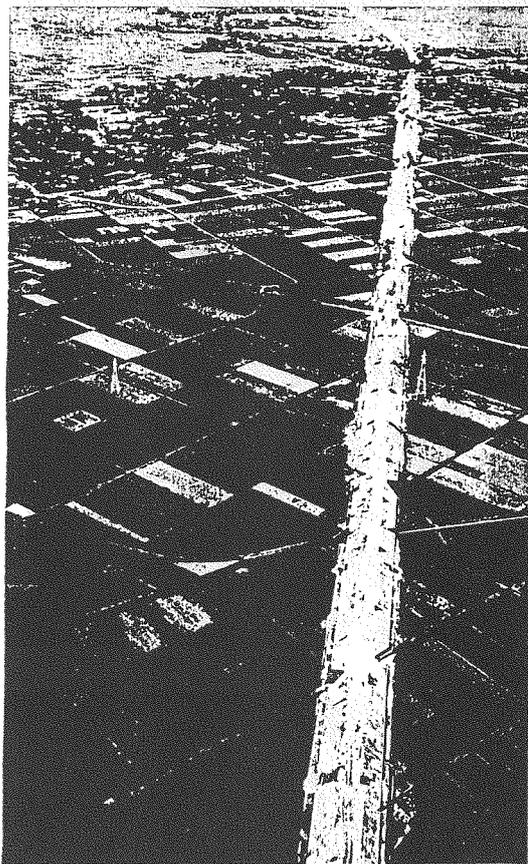


稲作(左)から
観葉植物まで

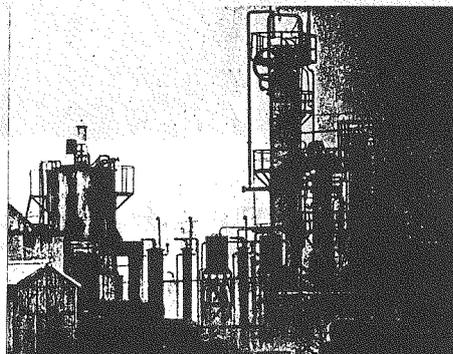
専業化共同化に活路を求めて脱皮する農業



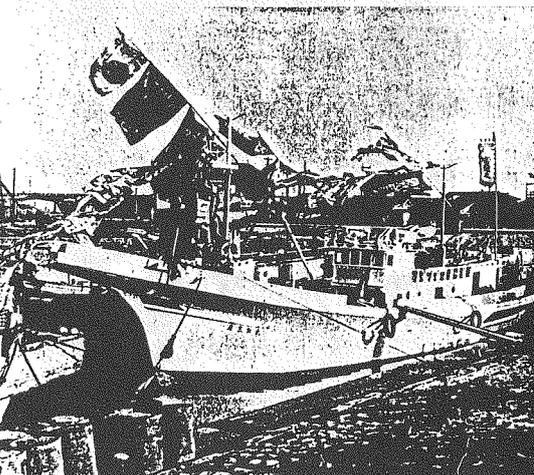
これまでの平塚の繁栄を支えてきたものは商業である。商店数2000。年間販売額190億をあげる平塚の商魂は、年に一度豪華な七夕まつりに百数十万の客をあつめる。既存工場街の充実にあわせて、相模川右岸一帯と大野の畑地を含む新工業地帯には、あたらしい平塚の息吹きがいっぱいであり、市が7000万円を投じて造成中の馬入工業団地にも新工場の進出がまじかであって年間生産額485億に達する工業は平塚の未来といえよう。3800世帯が従事する農業は、専業化協同化の方向に活路を求めて力強い脱皮を続け、黒潮にのるかつオ漁業は県下の中心地として名をはせている。働くまちであり、若々しい生命を秘める平塚である。



国鉄新幹線は農業と都市計画に大きな影響を与える。

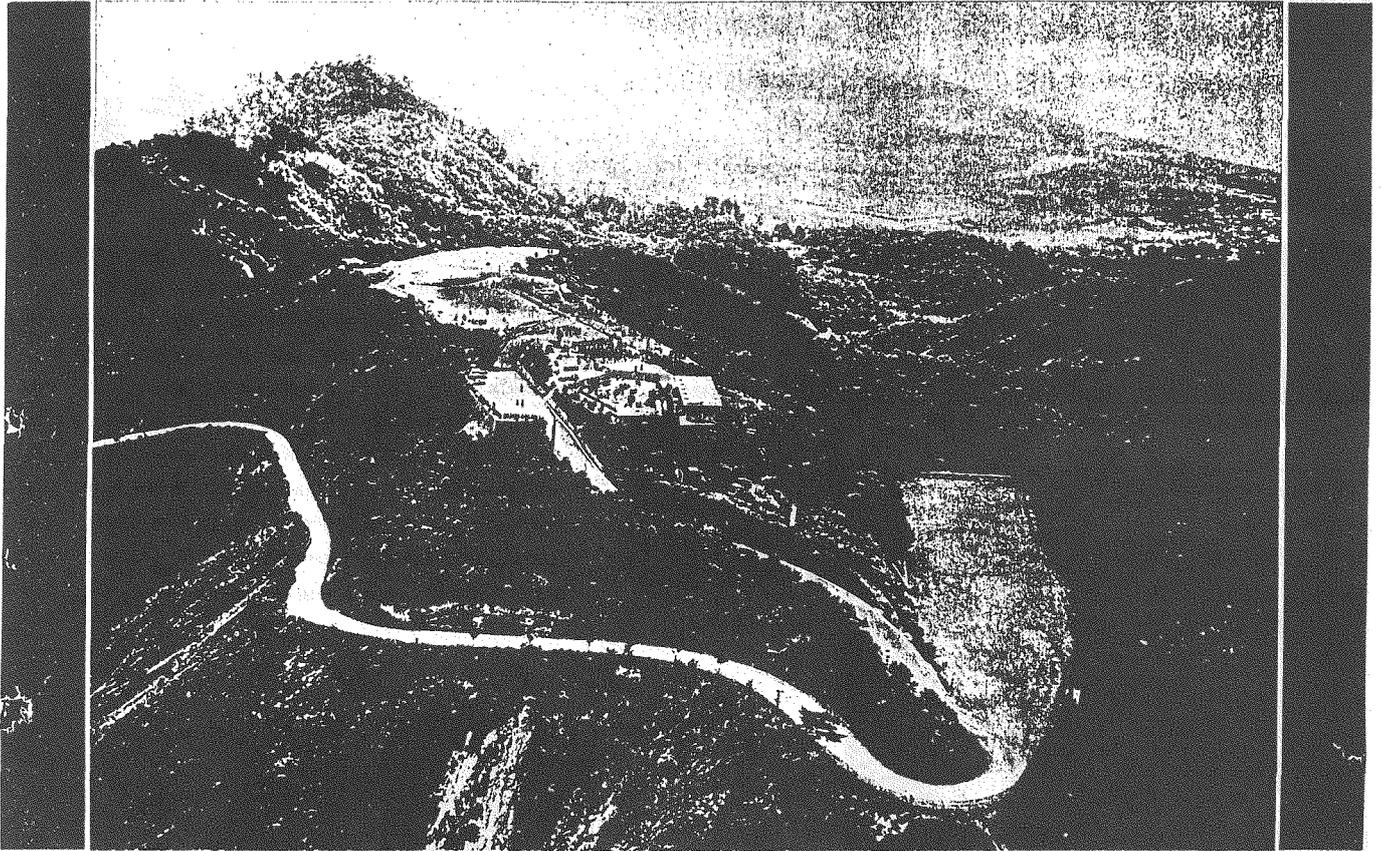


工業地帯にはあたらしい息吹きが充滿している



平塚は県下かつオ漁業の中心である。





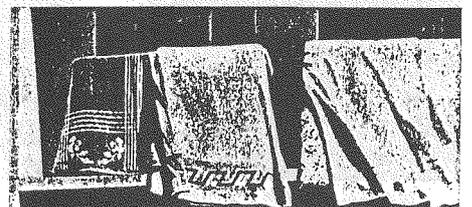
天恵のヘルスセンターである湘南平のにぎわい

生活を充たす

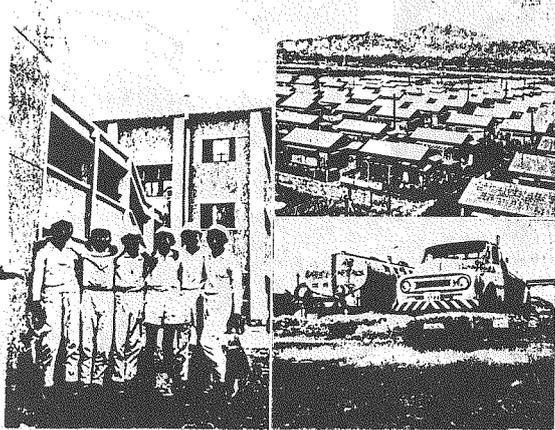
ここにあげた写真は、市民の日常生活とむすびついた市政の一面である。青い空とみどり濃い市域は、そのまま海岸に接し、全人口の61パーセントをこえる働く人とその家族が健康な平和な生活をたのしむ。その生活を充たす市政は、今後そのあつみを加えることになろう。



よこれを知らない平塚の海



陽ざしと生活、虹ヶ浜市宮住宅で



左・整備す、む教育施設、右上・東中原市宮住宅団地、右下・ことしは散水車も買えた



朝の出動をまつ、ごみ収集車